

高校生が抱く心理学への期待観

心理学科に在籍する大学生との比較を通して

林 郷子*・村上 史朗**・三沢 良***

Naïve expectations regarding psychology among high school students:
In comparison with undergraduate psychology majors

Kyoko HAYASHI, Fumio MURAKAMI and Ryo MISAWA

要 旨

本研究は、高校生が抱く心理学への期待観について心理学を専攻する大学生と比較することを目的として実施した。心理学のイメージについてのこれまでの研究の多くは既に心理学に興味や関心を抱いている大学生を対象としたものであるが、本研究では心理学専攻を目指していないものも多く含まれる高校生を対象とした。関西圏内の高校2年生707名、および心理学科に在籍する大学生213名を対象として、先行研究をもとに作成した心理学の素朴イメージや心理学への期待観を測定する調査を実施した。その結果、高校生は大学生と比較して、心理学へのイメージが単純な構造であることや、心理学の科学的側面について認識していないことなどが明らかになった。結果を踏まえて、今後の心理学のアウトリーチ活動に関する展望も議論された。

キーワード： ①心理学への期待観 ②高校生 ③心理学教育

I 問題と目的

近年、「心理学」に対する社会的ニーズが高まってきている。厚生労働省（2018）によれば、精神疾患により医療機関を受診する患者数はここ数年増加し続けており、精神障害による労働災害補償の請求件数は2017年度には過去最多の1732件を記録した。「こころの健康」に目を向けることが重要な時代となってきている。このような社会的背景を受けて、2015年9月には公認心理師法が成立し、日本初の心理職の国家資格が誕生することとなった。また、同年12月には労働安全衛生法の一部が改正され、従業員50名以上の事業所にはストレスチェックの実施が義務づけられるようになった。このように心理学への関心の高まりは、法制度の面からもうかがえる。

2018年9月12日受理 *社会学部心理学科教授・**社会学部心理学科准教授・***岡山大学大学院教育学研究科 講師

とくに公認心理師資格に関しては、従来の臨床心理士と異なり、大学院だけでなく大学学部における必要科目が定められているのが大きな特徴である。現在、心理学の専攻課程を持つ大学の多くが、公認心理師資格に対応したカリキュラムの準備を進めている。このことは、単に「心理学」に対する関心に留まらず、大学における「心理学教育」への関心を必然的に高めることにつながる。大学でどのような心理学教育を提供できるのかということが問われてくると考えられるのである。

しかしながら、心理学を学ぶことを目指して大学に入学してくる者たちが、必ずしも心理学に対して正しいイメージを有しているわけではない。彼らのイメージしている「心理学」は、大学で学ぶ心理学とかけ離れている場合がある。例えば木島他（2013）は常識心理学クイズを用いた調査を通して「高校生は心理学について基本的に誤ったイメージを有している」ことを指摘している。大学生においても、心理学科の1回生が、例えば血液型性格占いを信じるといったような通俗的な心理学への関心が高いことが示されている（東他, 1994b）。楠見（2017）の20～60代の市民を対象とした調査でも、経験から推論可能な子育てや対人関係の一部は知っていても、脳科学や記憶、感情に関する内容などは間違っ理解されていることが多いことが明らかになっている。このように、大学生に限ったものではないが、一般に抱かれる心理学イメージには、科学としての心理学の側面が欠落していることが多く、間違っイメージが形成されているのである。

なぜそのようなイメージが形成されるのか。これにはマスメディアの影響が大きいと考えられる。高校生や大学生が心理学を知る情報源として多いのは「テレビの情報番組やバラエティ番組」である（今野, 2000；泊, 2016；和田, 2004）。本や雑誌から知識を得ている場合も少なからず見られるが、その場合も専門書ではなく、心理クイズやゲームを含む「やさしい心理学の本」が多いようである（楠見, 2017）。これらの情報源によって形成された通俗的なイメージが、大学における学問としての心理学との間に大きなイメージ・ギャップを生み出しているのである。

もっとも、この間違っイメージは大学における学修を通して変化することが同時に論じられている。変化の一つは科学的・実証的な視点が加わることである。松井（2000）は、半年間の講義を通して大学生の心理学に対するイメージがどのように変化したかを検討し、心理学が「科学」として認識されるようになったことを示しており、岩崎他（2012）も、「心理学にできること」についての認識が科学的な方向に変化したことを示している。小城他（2010）においても、大学生が心理学の講義を受ける中で不思議現象に対して批判的になっていくことが示され、心理学の学修を通して科学的な考え方ができるようになっていったと考えられる。

もう一つの変化として、自己理解や他者理解への過度の期待の低下が挙げられる。心理学に期待することとして、「自分の悩みの解決」や「本当の自分の発見」といった「自己理解」に関するもの、「他者との良好なコミュニケーション」や「他者の問題解決」などの「他者理解」に関するものが上位に挙がってくることが多い（谷口（藤本）・金綱, 2012；工藤他, 2004）。この期待はとくに大学1年生において顕著で、学年が上がると低下することが認められている（岩崎他, 2012）。おそらくは、最初は「自他の悩みの解決」といった応用的な側面にばかり目が向いていたのが、先に述べた科学的な視点が加わったことで、相対的に期待値が下がったものと推測され、より広い視点から心理学を捉えられるようになったと結果といえよう。

この変化は実は弊害も伴う。心理学教育によって通俗的な心理学から学問としての心理学へとイメージは変化したが、それに伴って心理学への興味が減少してしまうという事態が生じ得るのである(東他, 1994a)。そもそも間違ったイメージを抱いて大学に入学してくるので、自分が期待していたものとは違うという感覚を抱くこととなり、学習意欲の減退につながってしまう。これは授業等の日頃の教育活動を通じて筆者も感じるところである。一方で興味は失われていないとする報告もある(江尻, 1999)ので、一概に意欲が減退するとはいえないが、さらなる興味につながるのか、あるいは興味の消失につながるのか、いずれもこのイメージ・ギャップが大きく影響していると考えられるだろう。

こういったイメージ・ギャップへの対応もなされ始めている。例えば日本心理学会は、2012年度より「高校生のための心理学講座」を開催し、高校生の興味関心を心理学の正しい認識のもとに高めようとしている。これは大学入学前から正しい方向へとイメージ修正を行い、入学時のイメージ・ギャップを減少させようとする試みといえる。あるいはイメージ・ギャップはあったとしても、当初は目の向いていなかった分野にも価値ある学問のおもしろさがあることをいかに伝えていくかということも大切と思われる。

いずれにせよ、大学入学前に心理学に対してどのようなイメージや期待を抱いているのかを把握することは、大学における心理学教育への橋渡しをスムーズにして、より効果的な教育のあり方を探索するためには不可欠である。

心理学に対するイメージや期待観を調査した研究は、これまで述べてきたように様々に行われている。ただし、包括的なイメージ把握には至っていない。形容詞対を用いてSD法でイメージ測定をした研究(宮本, 1994; 和田, 2004)では、汎用的な単語を用いており、心理学の特徴的な部分を捉え切れていない。自由記述法でイメージを尋ねた研究(松井, 2000)では、非常に多様な単語が挙がっていて、実態がつかみにくい。リッカート式の質問項目を用いた研究(岩崎他, 2012; 大橋他, 2013)もあるが、特定の側面に関する質問項目が多く、心理学への期待観をやや狭く捉えている感がある。

さらに、これらの研究の多くは大学生、とくに心理学を専攻している大学生を対象としたものである。すなわち、すでに何らかの形で心理学に触れ、心理学を学ぶという進路を選択した者たちである。大学に入学したばかりの1年生は入学前と同等と見なせるかもしれないが、心理学専攻と他の専攻の学生とでは心理学イメージが異なることが指摘されていて(岩崎, 2012; 東, 1994b)、科学的な視点は心理学専攻の学生の方が強いとする報告もある。もしかすると間違ったイメージのために心理学への興味が向かなかった者もいるかもしれない。大学入学前に抱いている心理学イメージを、心理学という進路を選択しなかった者も含めてより全体的に把握するには、入学前の者を調査対象とする必要がある。

そこで本研究では、「心理学」に対するイメージや期待観をより包括的に把握できるような質問項目で構成された尺度を作成して、高校生を対象に調査を行う。これを心理学科に在籍する大学生と比較することを通して、大学入学前に抱いている心理学のイメージ・期待観および大学入学後の変化を把握し、大学における心理学教育への貴重な視点を得ることを目的とする。

II 方法

1. 調査対象

(1) 大学生

関西圏内の私立大学心理学科に在籍する大学生 213 名（1 年生：49 名，2 年生：48 名，3 年生：58 名，4 年生：58 名）を対象とした。性別の内訳は、男性 123 名、女性 89 名、不明 1 名であり、平均年齢は 20.11 歳（SD = 4.32）であった。

(2) 高校生

関西圏内の高校 2 年生 707 名を対象とした。性別の内訳は男性 389 名、女性 318 名であり、平均年齢は 16.61 歳（SD = 0.493）であった。

2. 調査内容

(1) 心理学の素朴なイメージと期待観に関する質問紙

東他（1994a, b）の心理学観（15 項目）、江尻（1999）の心理学に対する素朴な効用観（7 項目）、工藤他（2004）の心理学の勉強への期待（16 項目）、南（2010）の心理学イメージ（30 項目）、岩崎他（2012）の心理学のイメージ（12 項目）および心理学を学ぶとできること（20 項目）、大橋他（2012, 2013）の心理学の有用観（18 項目）、谷口（藤本）・金網（2012）の心理学への期待（16 項目）を項目プールとし、内容の類似性に基づいて項目の整理・集約を行った。まず、心理学に対して抱く素朴なイメージを表現した項目群と、心理学を学ぶことで役に立つことや、できるようになることに言及した期待観を表す項目群に大別した。次に、類似した内容の項目をカテゴリにまとめ、各カテゴリの意味内容を代表する表現で 1～4 項目を作成した。心理学の素朴なイメージについては単一カテゴリで 10 項目、心理学への期待観については「自己理解」「他者理解」「人間理解」「社会貢献」「対人関係」「社会生活」「論理的思考力」「主体性・行動力」「セルフコントロール」「コミュニケーション力」の 10 カテゴリで全 39 項目を作成した。なお、項目の整理・集約、カテゴリの作成、項目表現の検討の一連の手続きは、臨床心理学、社会心理学、産業・組織心理学をそれぞれ専門とする著者 3 名の協議に基づいて実施した。

各項目について、「全くそう思わない（1 点）」～「とてもそう思う（6 点）」の 6 段階評定で回答を求めた。

(2) 心理学への興味と学習意欲

心理学への興味を問う質問として、「『心理学』に興味がありますか」の単一項目に対し、「全く興味がない（1 点）」～「非常に興味がある（6 点）」の 6 段階評定で回答を求めた。また、心理学の学習意欲を問う質問として、「『心理学』を学ぶことに意欲を持っていますか」の単一項目に対し、「全く意欲がない（1 点）」～「非常に意欲がある（6 点）」の 6 段階評定で回答を求めた。

(3) 心理学関連授業の受講経験

高校生にのみ、これまでに心理学関連の授業を受けた経験を尋ねた。「あり」「なし」の2件法で回答を求めた。

3. 調査時期・調査方法

大学生対象の調査は2016年4月に、高校生対象の調査は2017年11～12月に行った。いずれも授業の時間を利用し、集合形式で実施した。

Ⅲ 結果

1. 心理学の素朴なイメージ

高校生、大学生それぞれについて、心理学の素朴なイメージ項目10項目の平均値と標準偏差を表1に示した。高校生は大学生と比較すると尺度の理論的中央値である3.5に近い平均値となっている項目が多く、全体的に心理学について明確なイメージを持っていないことがうかがえる。一方、大学生は心理学科に所属していることもあってか、心理学に肯定的な意味の項目では平均値が高く、否定的な項目では平均値が低い傾向があった。

続いて、心理学の素朴なイメージ項目を対象に、高校生・大学生の対象ごとに、最尤法、プロマックス回転による因子分析を行った。高校生と大学生の比較のため、負荷量の低い項目を除く処理は行わず、全ての項目を用いた。因子数は、累積寄与率が50%を超え、かつ次の因子との寄与率の差が大きな因子までとした。その結果、高校生は2因子、大学生は3因子解となった(表2)。各因子に負荷量の高い項目から、高校生の2因子は第1因子から順に「肯定イメージ」因子、「否定イメージ」因子と名付けた。一方、大学生の3因子は「有用性」「神秘性」「親しみやすさ」と名付けた。高校生の持つ心理学イメージは比較的単純な構造となっており、心理学に対して肯定的な項目と否定的な項目で因子が分かっていた。ただし、「肯定イメージ」因子と「否定イメージ」因子の因子間相関は正であり、単純に両者が反する構造ではなかった。また、大学生のイメージは高校生に比べると複雑な構造を示していた。因子間相関を見ると、「有用性」因子と「親しみやすさ」因子の相関が正である一方、「神秘性」因子は他の2因子とほぼ無相関となっていた。

表1 心理学の素朴なイメージ項目の基礎統計量

| | 高校生 (n=707) | | 大学生 (n=213) | |
|---------------|-------------|-------|-------------|-------|
| | 平均値 | SD | 平均値 | SD |
| 心理学は難しい | 4.19 | 1.197 | 4.26 | 1.030 |
| 心理学は面白い | 4.21 | 1.291 | 4.95 | 0.794 |
| 心理学は暗い | 3.21 | 1.130 | 2.73 | 1.064 |
| 心理学は親しみやすい | 3.17 | 1.104 | 3.95 | 0.994 |
| 心理学は役に立つ | 4.08 | 1.210 | 4.64 | 0.959 |
| 心理学は文系の学問である | 3.70 | 1.143 | 3.62 | 1.090 |
| 心理学は神秘的である | 3.52 | 1.250 | 3.42 | 1.236 |
| 心理学は科学的である | 3.45 | 1.199 | 4.01 | 1.032 |
| 心理学は古いと関係が深い | 3.45 | 1.302 | 3.01 | 1.330 |
| 心理学は脳研究と関連が深い | 4.22 | 1.199 | 4.66 | 0.961 |

表2 心理学の素朴なイメージ項目の因子分析（最尤法、プロマックス回転）

| | 高校生 | | 大学生 | | |
|---------------|-------------|-------------|-------------|-------------|--------------|
| | 肯定 イメージ | 否定 イメージ | 有用性 | 神秘性 | 親しみ やすさ |
| 心理学は難しい | .065 | .457 | .140 | .093 | -.620 |
| 心理学は面白い | .832 | -.176 | .693 | -.096 | -.100 |
| 心理学は暗い | -.261 | .618 | -.034 | .322 | -.059 |
| 心理学は親しみやすい | .664 | -.125 | .223 | -.050 | .496 |
| 心理学は役に立つ | .803 | -.106 | .705 | .000 | .054 |
| 心理学は文系の学問である | .440 | .131 | -.025 | .209 | .301 |
| 心理学は神秘的である | .521 | .258 | .049 | .858 | .030 |
| 心理学は科学的である | .432 | .317 | .352 | .079 | -.023 |
| 心理学は古いと関係が深い | .240 | .386 | .016 | .359 | -.012 |
| 心理学は脳研究と関連が深い | .616 | .144 | .427 | .061 | .003 |
| 因子間相関 | | .345 | | .053 | .341 |
| | | | | | -.004 |

注：因子負荷量が0.4を超えた数値を太字で表記している。

2. 心理学への期待観

心理学への期待観に関する10種の下位カテゴリごとにカテゴリ内項目を加算平均してカテゴリ得点とし、それぞれの高中生と大学生の基礎統計量を表3に示した。理論的中央値である3.5から0.3以上平均値が離れていた項目は下記の通りであった。高校生については、「自己理解」「他者理解」「人間理解」の3カテゴリの平均値が高かった。一方、大学生については「自己理解」「人間理解」「社会貢献」の3カテゴリの平均値が高かった。また、高校生、大学生ともに平均値が3.2（理論的中央値より0.3低い）未満のカテゴリはなかった。

続いて、心理学への期待観に関する39項目を対象に、高校生・大学生の対象ごとに、最尤法、プロマックス回転による因子分析を行った。因子数は、累積寄与率が50%を超え、かつ次の因子との寄与率の差が大きな因子までとした。高校生については2因子が抽出され、項目内容から第1因子は「人間理解」因子、第2因子は「学習スキル」因子と名付けた（表4）。各因子と下位カテゴリとの対応を見ると、「人間理解」因子は概ね「自己理解」「他者理解」「人間理解」「対人関係」の項目で負荷量が高く、「学習スキル」因子は概ね「社会貢献」「社会生活」「論理的思考力」「主体性・行動力」の項目で負荷量が高かった。また、「セルフ・コントロール」「コミュニケーション力」のカテゴリに含まれる項目は、項目ごとに負荷量の高い因子が異なっていた。また、因子間相関は.695と非常に高かった。

大学生については4因子が抽出され、項目内容から第1因子は「対人関係」因子、第2因子は「学習スキル」因子、第3因子は「人間理解」因子、第4因子は「セルフ・コントロール」因子と名付けた（表5）。各因子と下位カテゴリの対応を見ると、「対人関係」因子は「対人関係」「コミュニケーション力」カテゴリの項目で寄与率が高かった。また、「学習スキル」因子は「主体性・行動力」カテゴリの全項目、「論理的思考力」カテゴリの7項目中4項目で負荷量が0.4を超えていた。「人間理解」因子で負荷量の高い項目は複数の下位カテゴリにまたがっており、「自己理解」カテゴリの全項目（4項目）、「他者理解」カテゴリの4項目中2項目、「人間理解」カテゴリの2項目中1項目、「社会貢献」カテゴリ、「論理的思考力」カテゴリの7項目中2項目で負荷量が0.4を超えていた。「セルフ・コントロール」因子は「セルフ・コントロール」カテゴリと

表3 「心理学への期待観」カテゴリごとの基礎統計量

| 下位カテゴリ | 高校生 | | 大学生 | |
|------------|------|-------|------|-------|
| | 平均値 | SD | 平均値 | SD |
| 自己理解 | 3.92 | 0.961 | 3.87 | 0.816 |
| 他者理解 | 4.04 | 1.021 | 3.79 | 0.790 |
| 人間理解 | 3.85 | 0.984 | 4.24 | 0.833 |
| 社会貢献 | 3.39 | 1.069 | 3.84 | 1.011 |
| 対人関係 | 3.67 | 0.918 | 3.52 | 0.775 |
| 社会生活 | 3.51 | 0.918 | 3.34 | 0.834 |
| 論理的思考力 | 3.36 | 0.872 | 3.46 | 0.716 |
| 主体性・行動力 | 3.39 | 0.960 | 3.42 | 0.888 |
| セルフコントロール | 3.78 | 1.080 | 3.46 | 0.990 |
| コミュニケーション力 | 3.74 | 1.035 | 3.55 | 0.879 |

注：各カテゴリ得点は加算平均を用いた。

表4 心理学への期待観項目の因子分析（高校生）（最尤法、プロマックス回転）

| カテゴリ | 項目 | 因子 | |
|------------|--------------------------------|-------------|--------------|
| | | 人間理解 | 学習スキル |
| 自己理解 | 自分の性格や考え方がわかるようになる | .750 | -.027 |
| | 自分の個性を伸ばすのに役立つ | .662 | .101 |
| | 自分の可能性に気づくことができる | .686 | -.100 |
| | 自分の悩みをうまく解決できるようになる | .784 | -.031 |
| 他者理解 | 他者の性格や考え方がわかるようになる | .948 | -.241 |
| | 他者の気持ちや心情に共感できるようになる | .955 | -.194 |
| | 他者が次にどう行動するか予測できるようになる | .694 | .023 |
| 人間理解 | 他者の悩みにうまく相談にのれるようになる | .952 | -.157 |
| | 人間に対する理解を深めることができる | .872 | -.111 |
| 社会貢献 | 人間に対する科学的な見方ができるようになる | .424 | -.293 |
| | 社会の中で解決すべき問題を発見できるようになる | .308 | .462 |
| 対人関係 | 社会とよい人間関係をつくれるようになる | .722 | .095 |
| | 苦手な相手ともうまく付き合えるようになる | .598 | .166 |
| | 自分とは違う考えや立場を尊重し、理解できるようになる | .843 | -.037 |
| | 周囲の人たちとうまく協力することができるようになる | .786 | .060 |
| 社会生活 | 周りの人に呼びかけ、一緒に行動を起こすことができるようになる | .267 | .568 |
| | 他者にだまされにくくなる | .378 | .302 |
| | 社会のルールやマナーを守って行動できるようになる | .194 | .578 |
| | 社会や組織でうまくやっていけるようになる | .433 | .400 |
| 論理的思考力 | 恋愛を成功させるのに役立つ | .304 | .432 |
| | 一般企業への就職活動をする際に役に立つ | .230 | .547 |
| | 物事を論理的に考えることができるようになる | .300 | .476 |
| | 物事を多様な観点から考えられるようになる | .452 | .321 |
| 主体性・行動力 | 地道な準備・計画に取り組むことができるようになる | .129 | .683 |
| | 一つのことを粘り強く取り組む忍耐力がつく | -.059 | .840 |
| | 統計データの数値やグラフを読めるようになる | -.226 | .936 |
| | うまく学習・記憶するコツが身につく | -.213 | .982 |
| セルフ・コントロール | パソコンやITのスキルが身につく | -.324 | 1.028 |
| | 物事へ積極的に取り組む姿勢が身につく | -.043 | .864 |
| | 自分で目標を立て、やりとげる姿勢が身につく | .009 | .828 |
| コミュニケーション力 | 新たな発想で工夫して考えることができるようになる | .180 | .634 |
| | 自分に必要な情報を集め、選び出すことができるようになる | .123 | .720 |
| | 自分の感情をうまくコントロールできるようになる | .629 | .144 |
| コミュニケーション力 | ストレスにうまく対処できるようになる | .604 | .183 |
| | やる気を保てるようになる | .394 | .415 |
| | 自分の意見をわかりやすく伝えられるようになる | .350 | .504 |
| | 他者が気持ちよく話せるように、配慮することができるようになる | .615 | .209 |
| コミュニケーション力 | 他者に物事をうまく教えられるようになる | .302 | .521 |
| | 他者をうまく説得できるようになる | .449 | .338 |
| 因子間相関 | | | .695 |

注：因子負荷量が0.4を超えた数値を太字で表記している。

表5 心理学への期待観項目の因子分析(大学生)(最尤法、プロマックス回転)

| カテゴリ | 項目 | 因子 | | | |
|------------|--------------------------------|-------------|-------------|-------------|----------------|
| | | 対人 関係 | 学習 スキル | 人間 理解 | セルフ・ コントロール |
| 自己理解 | 自分の性格や考え方がわかるようになる | -.044 | -.112 | .625 | .206 |
| | 自分の個性を伸ばすのに役立つ | -.067 | .088 | .692 | .010 |
| | 自分の可能性に気づくことができる | -.180 | .135 | .736 | .048 |
| | 自分の悩みをうまく解決できるようになる | .025 | -.098 | .575 | .195 |
| 他者理解 | 他者の性格や考え方がわかるようになる | .188 | -.140 | .519 | .028 |
| | 他者の気持ちや心情に共感できるようになる | .220 | -.089 | .519 | -.038 |
| | 他者が次にどう行動するか予測できるようになる | .549 | -.082 | .077 | .031 |
| | 他者の悩みにうまく相談のれるようになる | .405 | -.138 | .394 | .004 |
| 人間理解 | 人間に対する理解を深めることができる | .160 | -.034 | .571 | -.058 |
| | 人間に対する科学的な見方ができるようになる | .334 | -.046 | .329 | -.289 |
| 社会貢献 | 社会の中で解決すべき問題を発見できるようになる | .033 | .105 | .484 | -.128 |
| 対人関係 | 他者とうい人間関係をつくれるようになる | .709 | -.132 | .098 | .126 |
| | 苦手な相手ともうまく付き合えるようになる | .647 | -.084 | .024 | .144 |
| | 自分とは違う考えや立場を尊重し、理解できるようになる | .408 | .029 | .278 | -.124 |
| | 周囲の人たちとうまく協力することができるようになる | .545 | .017 | .237 | -.012 |
| | 周りの人に呼びかけ、一緒に行動を起こすことができるようになる | .651 | .113 | -.003 | -.066 |
| | 他者にだまされにくくなる | .318 | .015 | .110 | .136 |
| 社会生活 | 社会のルールやマナーを守って行動できるようになる | .400 | .301 | -.064 | .113 |
| | 社会や組織でうまくやっていけるようになる | .748 | -.027 | .109 | -.028 |
| | 恋愛を成功させるのに役立つ | .328 | .173 | .074 | .035 |
| | 一般企業への就職活動をする際に役に立つ | .380 | .209 | .040 | .068 |
| 論理的思考力 | 物事を論理的に考えることができるようになる | -.063 | .320 | .502 | .021 |
| | 物事を多様な観点から考えられるようになる | -.074 | .225 | .495 | .044 |
| | 地道な準備・計画に取り組むことができるようになる | .070 | .756 | .101 | -.120 |
| | 一つのことを粘り強く取り組む忍耐力がつく | -.064 | .718 | .056 | .117 |
| | 統計データの数値やグラフを読めるようになる | .071 | .373 | .272 | -.219 |
| | うまく学習・記憶するコツが身につく | .155 | .542 | .080 | .003 |
| | パソコンやITのスキルが身につく | .238 | .591 | -.205 | -.133 |
| 主体性・行動力 | 物事へ積極的に取り組む姿勢が身につく | .178 | .741 | -.097 | -.020 |
| | 自分で目標を立て、やりとげる姿勢が身につく | -.099 | .887 | -.049 | .071 |
| | 新たな発想で工夫して考えることができるようになる | -.138 | .632 | .210 | .110 |
| | 自分に必要な情報を集め、選び出すことができるようになる | -.087 | .775 | .003 | .006 |
| セルフ・コントロール | 自分の感情をうまくコントロールできるようになる | .172 | -.052 | .107 | .739 |
| | ストレスにうまく対処できるようになる | .246 | -.075 | .056 | .650 |
| | やる気を保てるようになる | .152 | .320 | -.093 | .565 |
| コミュニケーション力 | 自分の意見をわかりやすく伝えられるようになる | .662 | .197 | -.155 | -.018 |
| | 他者が気持ちよく話せるように、配慮することができるようになる | .600 | .034 | -.028 | .135 |
| | 他者に物事をうまく教えられるようになる | .612 | .210 | -.091 | .081 |
| | 他者をうまく説得できるようになる | .667 | .070 | -.076 | .031 |
| 因子間相関 | | | .543 | .602 | .542 |
| | | | | .400 | .434 |
| | | | | | .490 |

注：因子負荷量が0.4を超えた数値を太字で表記している。

対応していた。因子間相関は全体的に高く、0.4から0.6程度であった。

3. 心理学への興味と学習意欲

続いて、心理学への興味と学習意欲の項目について検討した。まず高校生と大学生の各項目の基礎統計量を比較したが、高校生が学年全体を対象としているのに対して大学生は心理学科の学生のみであるため、心理学への興味と学習意欲には高校生と大学生で大きな差があることが想定された。そのため、大学生については学年ごとの基礎統計量を算出し、学年間比較を行えるようにした。表6に示したとおり、高校生の平均値は心理学への興味、学習意欲とも尺度の理論的中央値である3.5よりやや低い値であった。一方、大学生は4学年全てで平均値は4.5以上であった。また、学年ごとの傾向としては1年生が心理学への興味、学習意欲ともに最も高く、学年が進行

するごとに平均値が微減していた。

続いて、高校生のみ測定されていた、心理学関連の授業の受講経験の有無ごとの、心理学への興味と学習意欲の平均値を算出した。受講経験のある群は 160 名、受講経験のない群は 541 名であった。心理学への興味は受講経験のある群で平均値が 3.73、受講経験のない群で平均値が 3.39 であった。心理学の学習意欲は受講経験のある群で平均値が 3.54、受講経験のない群の平均値が 3.12 であった。いずれも受講経験のある群で平均値が高かったが、大学生よりは低くなっていた。

表 6 心理学への興味と学習意欲の基礎統計量

| | 高校生 (n=699) | | 1 年生 (n=49) | | 2 年生 (n=48) | | 3 年生 (n=57) | | 4 年生 (n=58) | |
|----------|-------------|-------|-------------|-------|-------------|-------|-------------|-------|-------------|-------|
| | 平均値 | SD |
| 心理学への興味 | 3.45 | 1.425 | 5.37 | 0.755 | 5.08 | 0.895 | 4.86 | 0.693 | 4.74 | 0.983 |
| 心理学の学習意欲 | 3.22 | 1.334 | 5.04 | 0.763 | 4.94 | 0.885 | 4.67 | 0.715 | 4.52 | 0.863 |

4. 心理学への期待観と関連する要因

高校生の心理学への期待観と関連する要因を検討した。まず、心理学関連の授業の受講経験の有無によって、心理学への期待観の各下位カテゴリの平均値が異なるかを検討したところ、全ての下位カテゴリで有意な差は見られなかった ($t_s < 1.38, n.s.$)。

続いて、心理学への興味の得点の高群と低群で比較を行った。心理学への興味の得点範囲は 1 から 6 であるため、1 から 3 を低群 ($n = 311$)、4 から 6 を高群 ($n = 388$) とした。表 7 に示したとおり、高群では低群より、全てのカテゴリの平均値が有意に高かった。また、高群の平均値は、「人間理解」「社会貢献」の 2 カテゴリを除き、大学生の平均値よりも高くなっていた。この結果からは、高校生の中でも心理学への興味が高い群では、多様な側面について心理学への期待観が高くなっていることがうかがえる。一方、その数値が心理学を専攻している大学生よりも高いことから、心理学に対する現実的ではない期待の高さも含まれていると考えられる。大学生においても同様に入学直後の 1 年生では現実的でない期待の高さが表れる可能性があるため、大学生の心理学への期待観について学年間のカテゴリ平均値の比較を行い、同時に学年を独立変数とした 1 要因の分散分析も行った (表 8)。その結果、全体的に 1 年生の平均値が高く、学年進捗とともに平均値が低下するカテゴリが多かったものの、全てのカテゴリについて 5% 水準では学年の有意な効果は見られなかった。

表7 心理学への興味の高低ごとの心理学への期待観（高校生）

| カテゴリ | 心理学への興味 | | | | t 検定 |
|------------|---------|-------|------|-------|---------------|
| | 低 群 | | 高 群 | | |
| | 平均値 | SD | 平均値 | SD | |
| 自己理解 | 3.60 | 0.999 | 4.18 | 0.852 | <i>p</i> <.01 |
| 他者理解 | 3.62 | 1.055 | 4.38 | 0.866 | <i>p</i> <.01 |
| 人間理解 | 3.48 | 1.006 | 4.14 | 0.859 | <i>p</i> <.01 |
| 社会貢献 | 3.16 | 1.111 | 3.58 | 0.991 | <i>p</i> <.01 |
| 対人関係 | 3.38 | 0.971 | 3.90 | 0.803 | <i>p</i> <.01 |
| 社会生活 | 3.21 | 0.983 | 3.74 | 0.789 | <i>p</i> <.01 |
| 論理的思考力 | 3.14 | 0.947 | 3.55 | 0.767 | <i>p</i> <.01 |
| 主体性・行動力 | 3.17 | 1.009 | 3.57 | 0.890 | <i>p</i> <.01 |
| セルフコントロール | 3.42 | 1.150 | 4.07 | 0.925 | <i>p</i> <.01 |
| コミュニケーション力 | 3.36 | 1.081 | 4.04 | 0.889 | <i>p</i> <.01 |

表8 心理学への期待観 大学生データの学年間比較

| カテゴリ | 学 年 | | | | | | | | 分散分析 |
|------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|---------------|
| | 1 | | 2 | | 3 | | 4 | | |
| | 平均値 | SD | 平均値 | SD | 平均値 | SD | 平均値 | SD | |
| 自己理解 | 3.969 | 0.782 | 3.813 | 0.793 | 3.789 | 0.803 | 3.901 | 0.885 | <i>n.s.</i> |
| 他者理解 | 3.944 | 0.794 | 3.844 | 0.764 | 3.677 | 0.797 | 3.737 | 0.795 | <i>n.s.</i> |
| 人間理解 | 4.500 | 0.896 | 4.240 | 0.707 | 4.086 | 0.849 | 4.164 | 0.829 | <i>p</i> <.10 |
| 社会貢献 | 3.755 | 1.109 | 3.979 | 0.934 | 3.810 | 1.017 | 3.842 | 0.996 | <i>n.s.</i> |
| 対人関係 | 3.721 | 0.744 | 3.514 | 0.833 | 3.401 | 0.719 | 3.486 | 0.794 | <i>n.s.</i> |
| 社会生活 | 3.429 | 0.777 | 3.420 | 0.891 | 3.399 | 0.825 | 3.147 | 0.831 | <i>n.s.</i> |
| 論理的思考力 | 3.420 | 0.573 | 3.447 | 0.703 | 3.561 | 0.766 | 3.406 | 0.789 | <i>n.s.</i> |
| 主体性行動力 | 3.561 | 0.830 | 3.293 | 0.740 | 3.522 | 0.959 | 3.315 | 0.964 | <i>n.s.</i> |
| セルフコントロール | 3.701 | 1.072 | 3.479 | 0.899 | 3.345 | 1.039 | 3.339 | 0.925 | <i>n.s.</i> |
| コミュニケーション力 | 3.847 | 0.888 | 3.452 | 0.807 | 3.509 | 0.776 | 3.405 | 0.979 | <i>n.s.</i> |

III 考察

1. 心理学のイメージの複雑さ

心理学への素朴なイメージ、心理学への期待観ともに、高校生よりも大学生の方が多面的な理解をしていた。まず、心理学の素朴なイメージについては、高校生は単純に肯定的・否定的なイメージであったのに対し、大学生は「有用性」「神秘性」「親しみやすさ」の3因子に分かれていた。ただし、高校生の「肯定イメージ」「否定イメージ」の因子間相関が正であったことから、心理学について肯定的な面と否定的な面をともに意識している層が一定の割合でいると考えられる。

また、心理学の素朴なイメージ項目には、明らかに誤った内容（「心理学は占いと関係が深い」）や、正しいが一般的には知られていないと考えられる項目（「心理学は科学的である」）が含まれていた。これらの項目については、大学生の方が高校生よりも正確な回答をしている割合が高かった。大学生は心理学科の学生であるため当然の結果ではあるが、高校生にはそれらの知識が伝わっていない点は、心理学を学ぶ上での志向と実態のミスマッチを考えると無視できない要因である。

この場合のミスマッチには以下の2つのパターンが考えられる。1つは、誤った心理学のイメージに基づいて心理学専攻を志望し、入学後に実際の心理学とのギャップに直面するパターンである。もう1つは、本来心理学的な内容に関心があるにもかかわらず、そのことに気づかないまま

ま学習する意欲を持たないというパターンである。前者はどのような学問領域であっても一定程度は見られるものであり、イメージのギャップを低減する必要はあるものの、完全になくすことは難しいだろう。一方、後者は高校生までに具体的な内容に触れる機会の少ない心理学において大きな問題となるミスマッチである。高校までの学習内容において、初歩的なものであれ触れる機会のある他の多くの学問分野とは異なり、心理学についてはほぼ思想史の一部として紹介されるに留まっている。そのため、特に心理学の科学性や、疑似科学との差別化などが高校生に伝わっていないことが問題となるだろう。

2. 心理学への期待観

心理学への期待観も、素朴イメージと同様に大学生と比較して高校生では単純な構造となっていた。特に、大学生では「対人関係」「人間理解」と分かれていた因子が高校生では1つにまとまっていた。「対人関係」因子は、その項目内容から、日常生活における他者との対人関係をうまくやっていくためのスキルの習得を期待するという観点での心理学への期待であると言える。一方、「人間理解」因子は、自分自身についての理解を中心にしながらも、人間一般の性質について理解を深められるという観点での心理学への期待である。大まかに位置づければ、「対人関係」因子は、社会的スキルの側面を強調したツールとしての心理学への期待、「人間理解」因子は、人間一般への理解を深める学術的興味からの心理学への期待と考えられる。高校生において両者が分化していないことは、前者、すなわち対人的なツールとして心理学を捉えていることによると考えられる。いわゆる通俗心理学的な、「対人関係における雑学」のイメージが心理学への期待観に影響していると考えられる。

また、期待観の得点自体についてはどうだろうか。表6に示したように、心理学への興味が高い群では、全てのカテゴリにおいて興味が低い群よりも有意に平均値が高くなっていた。このことは、心理学に好意的であると期待観も増すという、心理学への肯定性を反映したものであると言え、その意味では得点の高低は単に心理学への好意度を反映したものに過ぎないとも考えることができる。しかし、心理学への興味が高い群でさえ平均値が理論的中央値である3.5と同程度であった3カテゴリ（「社会貢献」「論理的思考力」「主体性・行動力」）については、特に高校生には浸透していない側面であると捉えることができるだろう。

3. 高校生への心理学教育に向けて

本研究の結果から、高校生と心理学専攻の大学生の間には、心理学のイメージや心理学を学ぶことで修得できると考える内容について、いくつかの点でギャップがあることが示された。このギャップによるミスマッチを低減する上では、高校生をはじめとする心理学未学習者に対する情報発信が必要となるだろう。以下に、それを実現するにあたっての障害も含めて、いくつか論点を挙げておきたい。

まず、高校生に対して情報発信可能なチャンネルが限られるという点が障害となる。近年、高大連携の促進による高校への出張授業は増加している。また、サイエンスカフェ等の研究知見のアウトリーチ活動や、地域連携の一環としての公開講座などを実施している大学等の研究機関も

多い。しかし、これらの活動はあらかじめ心理学に対して一定の関心を持つ人々に対してしか届かないという限界がある。これらの活動は、心理学に対して誤った過剰な期待観を持っている人々のイメージを修正するという点では一定の効果が見込めるだろう。しかし、心理学的な関心を持ちながらも、それが心理学と関係すると気づいていない層はその種の活動には参加しないため、情報が届かないことになる。

また、高校の教員や高校生の親世代など、高校生の周囲の人々の多くも心理学の正しい知識を持っている割合が低いであろうことも障害となる。進路指導やアドバイスの中で、心理学への正確な理解に基づいた助言が期待しづらいのである。これは、前述のように高校までの学習内容で心理学の知識に触れていないことが要因の一つであるだろう。つまり、高校までに初歩的な内容に触れる分野とは異なり、心理学については「一般常識として持っている知識」が極めて限られており、主体的に情報を得ようとしない限り他領域並みにその知識を増やすことができないことになる。

心理学教育の前段階として、高校生をはじめとする一般層に可能な限り正確な心理学のイメージを周知することが望ましい。そのためには、従来から実施されている公開講座や高校への出張授業をより充実させることはもちろん、心理学の知識で「一般常識となっている部分」を増やすことも必要だろう。個々の心理学者がそれぞれに工夫した取り組みを行うことも重要だが、それだけでは「一般常識」とはなり得ない。その意味で、「心理学について知るためにはまずはここを調べる」というポータルサイトのように情報が集約されたツールが存在し、かつその存在が周知されることで、正確な心理学の知識がリーチしやすくなるのではないだろうか。日本心理学会の「心理学ミュージアム」のように、既にある良質なコンテンツをいかに社会的に共有していくかが、今後の課題となっていくだろう。一見遠回りにも見えるが、心理学の基礎的知識を一般常識にすることが、ミスマッチを低減する根本的な対策となると考える。

付記

本研究は平成 29 年度奈良大学研究助成を受けて行われた。高等学校の皆様等、調査に協力いただいた方々に感謝申し上げます。

引用文献

- 東 正訓・橋本尚子・加藤 徹・藤本忠明 (1994a). 大学生の心理学観の構造 追手門学院大学心理学論集, 2, 1-7.
- 東 正訓・橋本尚子・加藤 徹・藤本忠明 (1994b). 大学生の心理学観の構造Ⅱ：心理学者との比較 追手門学院大学文学部紀要, 29, 1-13.
- 江尻桂子 (1999). 心理学を学べば何がわかるのか：大学生の心理学観と、その心理学教育による変化 シオン短期大学研究紀要, 39, 51-59.
- 今野裕之 (2000). 心理学とは 松井 豊 (編) 高校生のための心理学 (pp.13-31) 大日本図書
- 岩崎智史・大橋 恵・皆川 順 (2012). 心理学に対するイメージ (1)：心理専攻学部生と非心理専攻学部

- 生を対象とした横断的研究 東京未来大学研究紀要, 5, 1-9.
- 木島恒一・山下雅子・野瀬 出 (2013). 高校生の心理学知識 北陸学院大学短期大学部研究紀要, 6, 109-116.
- 厚生労働省 (2018). 平成 29 年度「過労死等の労災補償状況」を公表 (<http://www.mhlw.go.jp/stf/newspage-00039.html>)
- 小城英子・坂田裕之・川上正浩 (2010). 不思議現象に対する態度における心理学教育の効果 日本心理学会第 74 回発表論文集, 101.
- 楠見 孝 (2017). 誰もがみんな心理学者? -日常生活で役立てるために 楠見 孝 (編) 心理学って何だろうか? - 四千人の調査から見える期待と現実 - (pp.1-29) 誠信書房
- 工藤与志文・鈴木健太郎・小林好和 (2004). 大学生の心理学に関する「素朴概念」: 本学人文学部生を対象にして 札幌学院大学人文学会紀要, 76, 1-16.
- 松井美枝 (2000). はじめて学ぶ「心理学」に対するイメージの変化: 「心の科学」受講前後の調査から 富山医科薬科大学一般教育, 23, 63-68.
- 南 学 (2010). 心理学概論の講義がクリティカルシンキング志向性に与える影響 (2): 心理学に対するイメージとの関連 三重大学教育学部研究紀要, 61, 251-262.
- 宮本邦雄 (1994). 女子大学 1 年次学生の「心理学」講義評価と「心理学」イメージ 東海女子大学紀要, 14, 121-129.
- 大橋 恵・岩崎智史・皆川 順 (2012). 心理学に対するイメージ (2): 一般市民対象のオンライン調査より 東京未来大学研究紀要, 5, 11-20.
- 大橋 恵・岩崎智史・藤後悦子 (2013). 心理学を学ぶことの効果について: 心理学の学習がその後の社会人生活にどのように役立ったか 東京未来大学研究紀要, 6, 13-21.
- 谷口 (藤本) 麻起子・金網知征 (2012). 心理学に対する期待及び大学の専攻動機の変化過程に関する調査研究 聖泉論叢, 20, 1-10.
- 泊 真児 (2016). 高校生における心理学の情報源と心理学イメージの関連: 自己および不思議現象認識欲求の観点からの検討 沖縄国際大学人間福祉研究, 12 (1), 1-20.
- 和田正人 (2004). 高等教育におけるマス・メディア接触の影響: 心理学・社会心理学・教育工学・情報教育へのイメージ及び興味・知識 東京学芸大学紀要 第 1 部門 教育科学, 55, 345-352.

Summary

The purpose of the present study is to investigate the naïve expectations regarding psychology among high school students, compared with undergraduates majoring in psychology. In most previous research on naïve images towards psychology, participants were undergraduates who were interested in psychology. On the other hand, the focus of this study is high school students, including people who were indifferent towards psychology. A questionnaire survey including items concerning naïve concepts about psychology based on previous studies was conducted. The sample consisted of 707 high school students and 213 undergraduates. The results indicated that, compared to undergraduates, naïve images towards psychology among high school students had a simple structure, and high school students don't think seriously about the scientific aspects of psychology. Based on the results, the perspective of outreach activities about psychology was discussed.

Keywords : ① naïve expectations regarding psychology ② high school student
③ education of psychology